



「棚倉で発生した大火事を忘れな
いように飼うようになった」と話
し、メダカに餌をやる鈴木さん

棚倉町の宴会場新富家の ると、春先で空気が乾燥し
施設前にある水槽の上には ており、強風が吹き付けた
「滅大火」の文字があった。 ことで火がたちまち町全体
社長の鈴木一彦さん(61)は に広がったと伝わっている
「大火事を忘れないように いう。
メダカを飼うようになった 火災を教訓とすべく「滅
た」と語る。メダカは10 大火」の語呂合わせを考え
0カ所以上の町内事業所や てメダカの飼育を広めたの
棚倉消防署などで飼育され が2021年、当時町商工
ている。 会商業部会長を務めていた
同消防署によると、棚倉 石井二郎さん(67)だ。メダ
大火は午後1時30分、 力飼育者の交流を通じて町
同町古町中心部から出火、 の活性化につなげようと町
181戸を焼き、2人が死 内事業所などにメダカを寄
亡、5人がけがをする被害 贈。その一環で、火災予防
があった。同消防署の消防 の意識を高めようと思い付
士長緑川将也さん(36)によ いた。

棚倉大火の発生は石井さ
んが生まれる前だが、自身
も実家の家屋などが燃えた
経験がある。父からは、棚
倉大火の当時の様子を聞か
されていたこともあり、被
害が二度と起こらないよう
にとの思いを込めた。これ
からも教訓をつないでいく
べく取り組みを続ける考え
で、「メダカを通じて若い
世代にも火事の恐ろしさを
伝えていきたい」と願う。
(伊藤大樹)

きょう発生85年

棚倉大火、教訓は「滅大火」

棚倉町古町中心部で発生した「棚倉大火」
と呼ばれる火災が、今からちょうど85年前の
1940年3月28日に発生した。181戸が
全焼する大火災から長い年月が経過する中、
「あの火事を忘れてはいけない」と、棚倉町
の商店街の店先には、「滅大火」の語呂合わ
せでメダカの入った水槽が置かれている。



棚倉町古町中心部で発生した棚倉大火＝
1940年3月28日(棚倉町教育委員会提供)

町内商店街、メダカ飼育

▲ 3月28日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと(330字程度)

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

山火事があちらこちらで発生していて心配
ですね。「滅大火＝メダカ」が全国に広まる
といいですね。

